

地方の会報紙より

教育現場の応援団として
活躍される会に感謝

長野県 会長 高橋 基

(長野県退職校長会会報第101号)

(総会時の会長挨拶から)

.....(前略).....

長野県退職校長会は今まで同様、「教育現場の応援団でありたい」をモットーに、我が国を背負ってくれる子どもたちが健全に育つよう、「教育現場」つまり、子育てに取り組む学校・家庭・地域の方々の応援をし続けていきたい。応援の心構えによって互いの人格が問われると思っている。佐久支会では、毎年会員の文集『天風』を発行している。その中でまさに教育現場の応援団として活躍されている先生方に出会うことができる。

旧望月町の四つの小学校が統合されるに当たり、四地区の子どもたち・保護者・地域住民が、違和感なく新小学校に移行できるようにと、「望月教育プラットホーム」の立上げに力を尽くしたA先生。統合した今も、地域の子どもたちは地域で育てようと活動を展開している。

児童館に勤務している女性会員のB先生。子どもと親の気持ちのズレを察し、迎えにきた親にさりげなく声をかける。次の日の子どものうれしそうな表情が全てを物語っている。日本語の読み書きが出来るようになりたいと訴える外国人の女性の声から、全くのボランティアで日本語教室を立ち上げたC先生等々、地道に活動している仲間が多いことは心強い。

佐久支会の最高年齢者でいらっしゃるD先生、九十八歳の道の道を究められてきただけに、書塾を通して地域の子どもたちや大人と共に歩んでこられた。そのD先生の座右の銘は、「希望に起き、歓喜に働き、感謝に眠る」とある。それにあやかり、我々も「希望をもって起き、喜びをもって働き、一日生かしてもらったことに感謝して床につく」そんな日々でありたいと願っている。

ろうそくを支える燭台

新潟県 会長 水野 文俊

(新潟県退職校長会会報第40号)

昭和三十八年、東京オリンピックで女子バレーボールの日本チームが金メダルを獲得した。世界一の座について、優勝祝賀会でマイクの前に立った大松監督は、大勢の人た

ちに、次のような報告をした。皆様のおかげで、オリンピックで優勝することができました。

ここで、皆様に報告申し上げたいことが一つあります。それは、今回の優勝ができたのは、鈴木マネージャーのおかげなんです。彼女は、オリンピックの晴れ舞台で、選手としてコートに立ちたいと思つてやってきました。その彼女に、マネージャー役を引き受けてくれないかと頼んだ時、あいつは、泣きながら、長い間じっと座っていたんです。一週間後、私のところにやってきた彼女は、「私にマネージャーをやらせて下さい。お願いします」と、頭を下げて言ってくれました。それからの彼女は、一言の文句も言わずに、夜食づくり、洗濯、選手たちの世話一切を、四年間やって

くれました。

人間は、灯りのついたろうそくを見ますが、それを支えている燭台を見ようとしません。燭台があればこそ、ろうそくは何時間でもともし続けることができるんです。

鈴木は、このチームの燭台的存在でした。鈴木、ありがとう。

このあいさつを聞いて、会場を埋めつくした人たちは、鈴木選手に、惜しめない拍手を送った。

最近、「教育支援」ということばをよく耳にする。教育の世界で、直接子どもたちに接しているのは、学校の教師である。それは、まさに「ろうそく的存在」である。私たち退職校長会は、それを支える「燭台的存在」でありたい。燭台となって、悩んでいる教師がいたら、そっとその心の中をのぞきこみ、その何分の

一でよいからわかってやれる存在になりたいと念じる今日この頃である。

継続は力

— 喜多院の出会い —

川越 鯨井 愛子

(埼玉県退職校長会会報第140号)

「健康は最高の幸福、満足は最大の財産」名刹仲院の掲額にある言葉である。毎朝、この言葉に對面し唱えていると「今日も元気でありがとう」の気持ちが始まる。

退職後、喜多院のラジオ体操会に参加して十五年、継続は力なりの言葉を噛みしめながら一日が始まる。

夏になると二百名を超えるシニアが集い全身を開く。この爽快感と出会いが明日へのエネルギーとなってきた。

太極拳の出会いも喜多院から始まった。「剣」に魅了さ

れ練習を始めて十五年、二十四式、四十八式、「剣」をマスターし、今はサークルで継続している。

最近では「仲間に入れて」と健康志向のシニアが見様見真似で参加している。入門者の手ほどきも出来るまでになった。ゆったりとした動き、境内の爽やかな空気に浸りながら「今日も元気でありがとう」のつぶやきが自然に出る。

喜多院の隣の東照宮も家光縁の国宝のある神社、この階段を昇り降りする内に新たな出会いが生まれた。緑陰喫茶と命名し境内の売店のおばさんとの交流が始まって癒しのひと時を過ごしている。

樹木に包まれた境内は鶯の声、カツコウの声も聞ける緑陰喫茶。厚意のモーニンググロ―ヒーは最高のブレンドだ。今朝も東照宮の階段を掃いていると、「待っているよ」と声がかかり仲間が集う。おば

さんの善意と味を求めて笑顔が集いおしゃべりが始まる。

喜多院でクラシック「第九を歌う」出会いを作ってくれたA先生に感謝している。ドイツ語で歌う。言葉とメロディーを覚える難行苦行の日々で、やめようかと怠け心が過ったが続けてよかった。

この第九の公募に二百名を超える参加者が喜多院に並んだ。何と当日は満月が煌々と輝き、最高の舞台だった。プロのソリストの声、エレクトーンの演奏が境内に響き渡り聴衆を魅了する。大喝采の中に私もいた。

今年の「第九の夕べIN喜多院」は、十月十一日にあの舞台で演奏する。三年目の今年は、言葉もメロディーもついていけるし、練習が楽しい。喜多院の出会いに感謝しながら脳細胞の衰えにブレーキをかけることが出来たらと、今日も一日が始まる。